

とみおか子ども未来ネットワーク 私たちが抱える問題と構造 ～タウンミーティングの発言から～

見取図

**社会的合意形成による再建の道：
機能不全による意に反した現実の出現からくる
抗しがたい無力感**

I003 避難者は、為政者側の独走によって議会制民主主義に基づく行政が機能せず、町民側は皆の考えをまとめることが難しく、結果として意に反する現実が起こっても従わざるを得ず頼らざるを得ない現実、抗しがたい無力感と被害者意識を強めている。

28~33

それ故に

**正しい判断への備え：
信頼できる情報源と情報格差の解消**

E032 避難者は、正確な情報や意見を公に発信することが社会的に封じ込められる状況が発生するなかで、決断のときがきた時正しい判断ができるように、信じるに値する情報源と情報格差の解消を求めている。

81~83

しかし、
それ故に

しかし、
それ故に

**為政者の支援による再建の道：
賠償問題の確定を前提とした帰還派・移住派・判断つかない派の3本立て支援への期待**

J002 避難者は、為政者が放射能被曝・汚染問題を抱えるなか避難解除の方向で進める復興計画に対して、帰還派・移住派・判断つかない派に枝分かれしているが、共に何らかの形でふるさとの回復をみぞうと、賠償問題の確定を前提に生活再建の見通しを持つような3本立ての行政支援を求めている。

34~73

**当事者の協力による再建の道：
原発被災からの復興と日本の破滅阻止
への取り組み**

F008 避難者は、原発事故の大惨事で被曝した当事者としてみんなが力を合わせて、原発被災からの復興さらにはこの教訓を活かし日本が破滅することがないように、町の力も借りながら、為政者側や東電、広く外に働きかけたいと思っており、動き始めた人もいる。

74~80

**不信・不安・恐怖の源：
安心できる放射能数値の設定
と情報公開の欠落**

H006 避難者は、放射能汚染による健康被害を心配しなくてもよい数値設定と情報公開がないが故に、為政者側の対応姿勢には不信感、市町村や人々の側の対応姿勢には防御への温度差による怖さを感じ、自らも富岡町への踏ん切りがつけられないと思っている。

84~88

背後で常に作用し

しかし、
それ故に

しかし、
それ故に

**自力による再建の道：
資産・職・住居を取り戻す難しさと人生
行路の安心感の喪失からくる閉塞感**

J001 避難者は、放射能被曝・汚染に基因する避難生活と地域や世論の受け入れ姿勢が避難者排除の方向に転じつつある狭間で、失った資産と職、住まいを自力で取り戻すことが困難な状況に加え、生活設計の狂いとこの先の人生行路の安心感を奪われ、閉塞感に陥っている。

1~27

一方では

**見切り発車の再建の道：
異様な活況を呈する“いわき”**

A066 避難先からいわきに行くと、市内は病院や交通の混雑が激しく異様な雰囲気になっている。

88

註) 右下隅の四角内の数字は、細部図の番号を示す。その意見1,052項目まで表示。

- (1) 2013年7月16日~11月24日
- (2) 情報工房
- (3) 2012年7月~2013年3月の間の7地域8回のタウンミーティングの発言。意見項目数1,052項目
- (4) 山浦晴男